

02 日本を守るための活動とは？

「国家防衛戦略」等に基づく陸上自衛隊の取り組み

平素からの取り組み

抑止力の強化のための取り組み

平素から南西地域に部隊を配置するとともに、あらゆる事態に対応するため、訓練を行います。



部隊の受入れ基盤(駐屯地)の整備



部隊展開訓練



展開地における実動訓練

警戒・監視

平素から警戒・監視網を広範囲にわたり継続的に構築するとともに、日本及び日本周辺における様々な兆候を察知します。



対海上脅威への警戒・監視



対空脅威への警戒・監視



サイバー攻撃等の兆候を察知

同盟・同志国との連携

平素から同盟・同志国との共同訓練を実施するとともに、これらの国々との関係を強化します。



米陸軍との共同訓練



豪陸軍との共同訓練



比海兵隊との共同訓練

グレーゾーン事態への対応

グレーゾーンの事態においては、関係部外機関と連携して必要な対処を実施するとともに、事態の深刻化に備え、部隊展開や防御準備を行います。



迅速な部隊展開



関係部外機関との連携



防御準備

日本に対する侵攻への対応

さまざまな脅威からの国民や重要施設等の防護

侵攻の阻止と同時に、侵攻地域のみならず、さまざまな脅威から国民や重要施設等を防護し、国民の生命・身体・財産と日本の領域を断固として守り抜きます。



重要施設等の防護



住民の避難支援



武力攻撃災害への対応

侵攻の阻止

いち早く、そして遠方で侵攻を阻止するために、相手の脅威圏外からのスタンド・オフ・ミサイルを発揮し、相手を撃破します。加えて、海空自衛隊や米軍との統合・共同作戦により、各種の火力を発揮して侵攻を阻止します。



統合対艦攻撃



統合防空ミサイル防衛



対機甲戦闘

3 今後は、どのような活動が必要になる？

「国家防衛戦略」等に基づく陸上自衛隊の取り組み —陸上防衛力の強化(中期的な取り組み)—

陸上防衛力強化の4つのポイント

1 領域横断作戦能力の強化

2 スタンド・オフ防衛能力の強化

3 迅速かつ分散した機動展開能力の強化

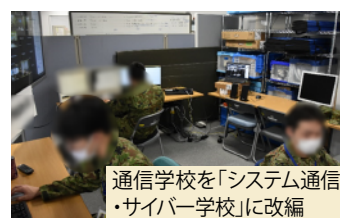
4 持続性・強靱性の強化

1 領域横断作戦能力の強化

従来の陸・海・空領域に、宇宙・サイバー・電磁波領域を加えた6つの領域の相乗効果を引き続き強化します。あわせて、認知領域を含む情報戦に対処します。

サイバー・電磁波・宇宙領域の強化

サイバー領域において防衛省・自衛隊のサイバー能力強化に寄与するため人材育成基盤を強化するとともに陸上自衛隊の防護能力を強化します。また、電磁波領域における電子戦能力、宇宙領域においては衛星を活用する能力を強化します。



各領域を横断する作戦能力の強化

各領域を横断する能力として、情報収集能力、統合での対艦・対地攻撃能力、統合での防空ミサイル防衛能力、水陸両用作戦能力等を強化します。

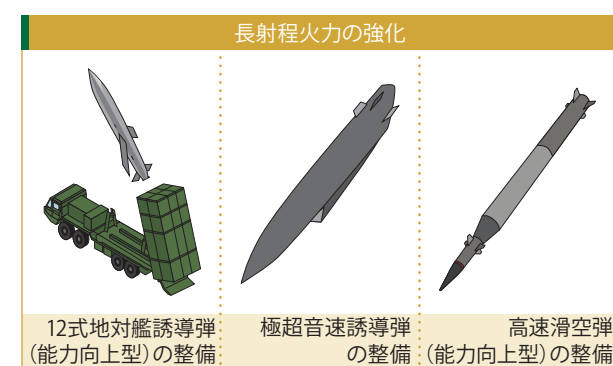
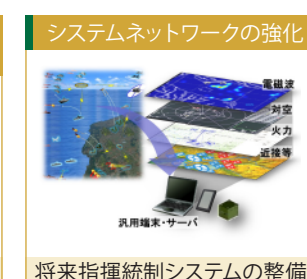
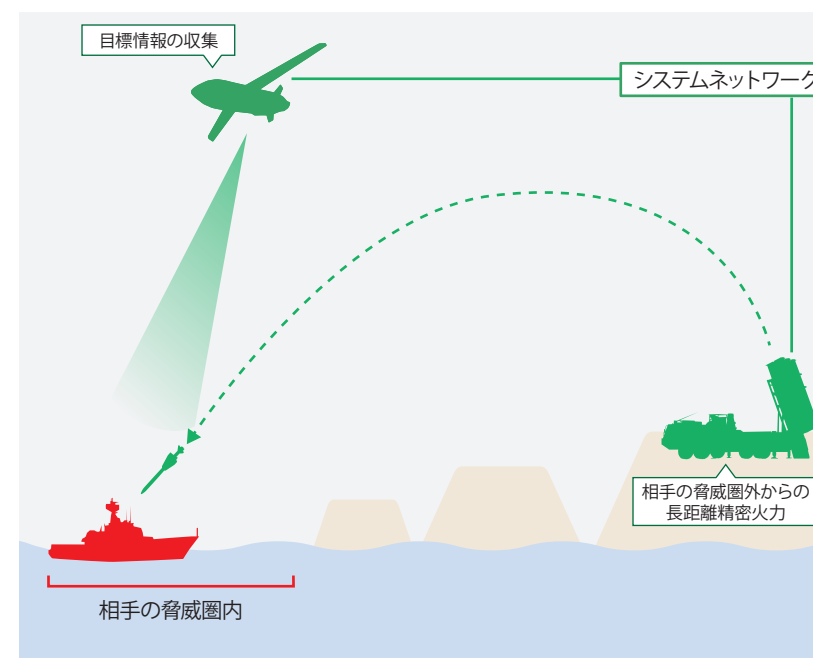


認知領域を含む情報戦への対応

認知領域を含む情報戦に対処し、AIの活用等により、意思決定の優越を確保します。

2 スタンド・オフ防衛能力の強化

相手脅威圏外(スタンド・オフ)からの攻撃が可能な長距離精密火力を即時に指向できる態勢を確立し、抑止力・対処力の中核を構成します。



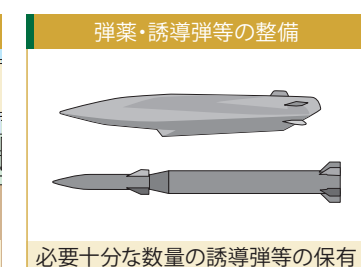
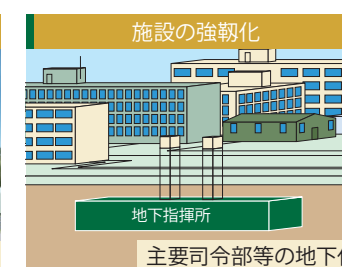
3 迅速かつ分散した機動展開能力の強化

情勢の緊迫に伴い迅速に部隊等を展開し得るよう、機動展開能力を強化します。



4 持続性・強靱性の強化

後方支援体制の整備や機能を充実させるとともに、防衛施設を強化することにより、作戦を継続する能力を強化します。



04 日米同盟にはどんな意味がある？

「国家防衛戦略」等に基づく陸上自衛隊の取り組み - 日米同盟による抑止力・対処力強化 -

日米双方の新たな戦略等に基づく取り組みを逐次取り入れつつ、戦略対話・運用研究／指揮所演習・共同訓練を有機的に連携させ、日米共同対処態勢を抜本的に強化していきます。さらに、日米同盟を基軸とした同志国等との連携の強化にも積極的に取り組んでいきます。



戦略対話等に基づく関係強化

陸上自衛隊は米陸軍と米海兵隊の間において、強固なカウンターパート関係を構築し、日米陸軍種間の連携を一層強化していきます。

中央レベル

米陸軍参謀総長との懇談

米海兵隊総司令官との懇談

太平洋レベル

米太平洋陸軍司令官との懇談

地域レベル

在日米陸軍司令官との懇談

日米共同訓練の進化

陸上自衛隊の領域横断作戦と米陸軍のMDO^{※1}・米海兵隊のEABO^{※2}を踏まえた実行動による連携要領の具体化により、共同対処能力を向上させるとともに、これらの成果を積み上げ、日米共同方面隊指揮所演習（YS）において融合させ、総合的な能力向上を図っていきます。



日米同盟を基軸とした同志国等との連携の強化

ガルーダ・シールド (Garuda Shield) : 米国および尼国^{※3}における日米尼共同訓練

※3 尼:インドネシア

令和4年8月、陸自として初となるインドネシア陸軍との実動訓練を実施し、日米インドネシア陸軍種間の連携を強化しました。



日米比ハイレベル懇談

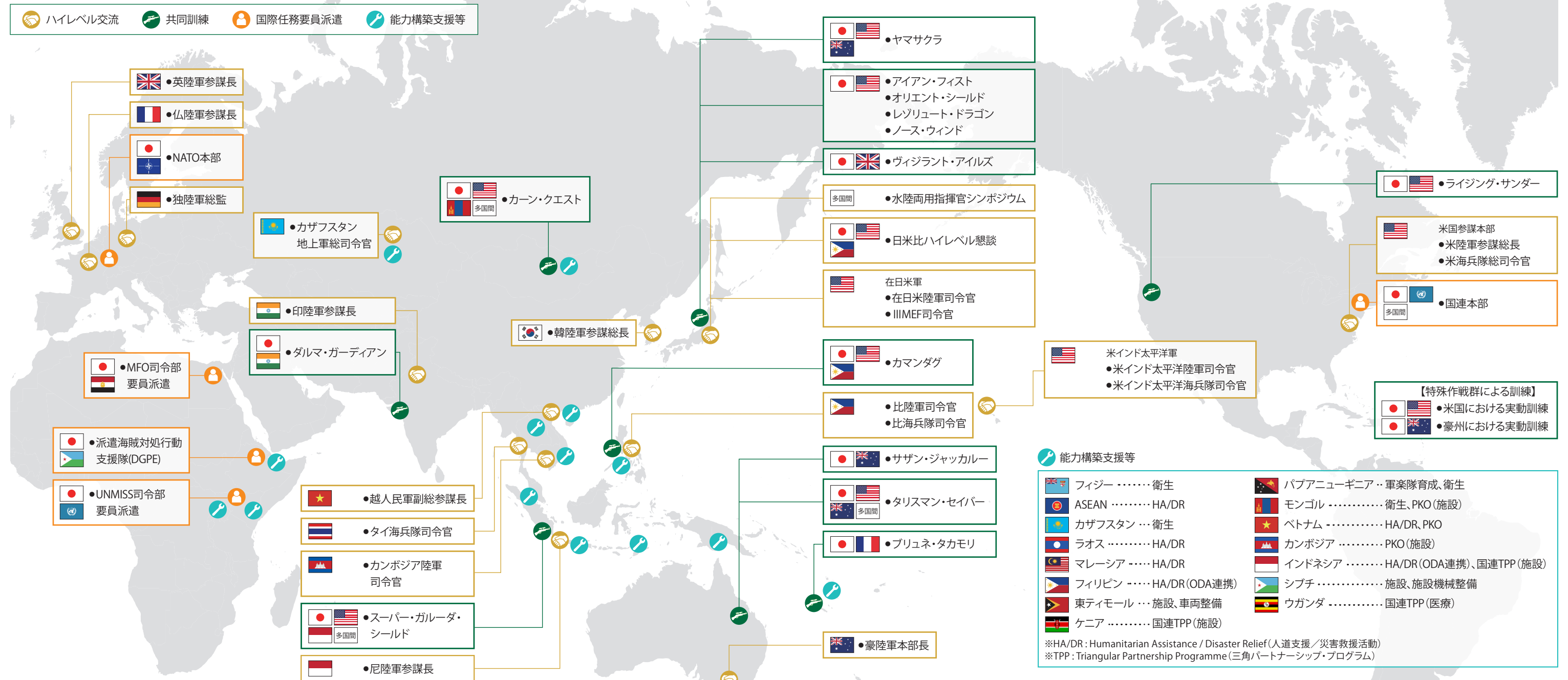
令和4年12月、日米比陸軍種によるハイレベル懇談を初めて一堂に会して実施し、同盟国である米国および日本と戦略的共通点を有するフィリピンとの連携を強化しました。



5 米国以外との協力関係は？

「国家防衛戦略」等に基づく陸上自衛隊の取り組み — 同盟国・同志国等との連携の強化 —

ハイレベル懇談、共同訓練、能力構築支援等により、米・豪・印、ASEAN諸国、英・仏・独をはじめとする欧州諸国、太平洋島嶼国等との多角的・多層的な防衛協力を推進していきます。



※長方形・正方形の国旗は、縦横比を全て2:3に統一しています。